

2021年（令和3年）の天候と台風のとまとめ（速報）

- 日本の年平均気温は1898年の統計開始以降で最も高い値となる見込みです。また、前年12月～1月にかけて日本海側の各地で大雪となったほか、8月中旬は東・西日本で記録的な大雨となりました。
- 台風の発生数は平年より少ない22個でした。日本への台風の接近数は平年並みの12個で、そのうち3個が上陸しました。
- 世界では、主に北半球の各地で異常高温、異常多雨が発生しました。中国中部の大雨（7月）、南アジア及びその周辺の大雨（5～11月）、ヨーロッパ中部の大雨（7月）、北米中部から西部の熱波（6～7月）など、多数の死者を伴う災害が発生しました。

○日本の天候について（別紙1-1、1-2参照）

- ・ ほぼ年を通して全国的に気温の高い状態が続きました。日本の年平均気温は1898年の統計開始以降、2020年と並び、最も高い値となる見込みです（図1）。
- ・ 前年12月から1月中旬にかけて、強い寒気が南下したため、日本海側の各地で大雪となりました。¹
- ・ 8月中旬は、前線が本州付近に停滞したため、東・西日本の各地で長期間にわたって大雨となりました。²

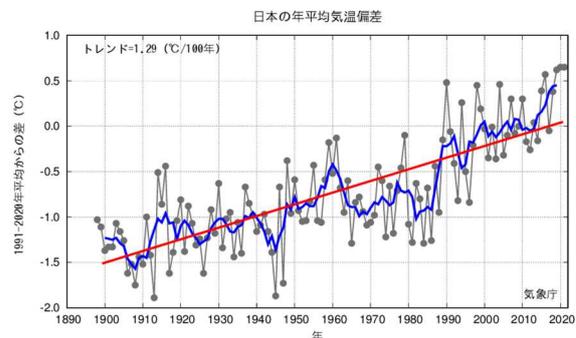


図1 日本の年平均気温の経年変化（1898～2021年）。1991～2020年の30年平均値からの偏差で表示。2021年は1～11月の期間から算出した速報値。

○台風について（別紙2参照）

- ・ 台風の発生数は平年より少ない22個でした。特に、台風の発生数が最も多くなる8～9月における台風の発生数が8個と平年より少なくなったため、

¹ 令和2年度 異常気象分析検討会（第3回）資料に要因を掲載。

https://www.data.jma.go.jp/extreme/kaigi/2021/0311/r02_3rd_kentoukai_202103.html

² 令和3年度 異常気象分析検討会（第1回）資料に要因を掲載。

https://www.data.jma.go.jp/extreme/kaigi/2021/0913/r03_1st_kentoukai_202109.html

年間の発生数も平年より少なくなりました。

- ・ 日本への台風の接近数は平年並みの12個で、3個が上陸しました。
- ・ 台風進路予報の精度は年々の変動がありますが、長期的にみれば向上しており、5日先の予報の平均誤差は、予報を開始した2009年以降で2番目に小さくなりました（図2）。

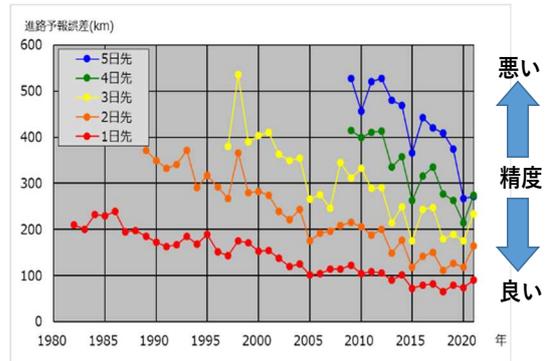


図2 台風進路予報誤差の経年変化（第13号～第21号は速報値）

○世界の天候について（別紙3-1、3-2参照）

- ・ 世界各地で異常高温が観測され、各国から月平均や季節平均気温の記録更新が頻繁に伝えられました。世界の年平均気温は、1891年の統計開始以降で、6番目に高い値となる見込みです（図3）。
- ・ 中国中部の大雨（7月）、南アジア及びその周辺の大雨（5～11月）、ヨーロッパ中部の大雨（7月）、北米中部から西部の熱波（6～7月）など、多数の死者を伴う災害が発生しました。

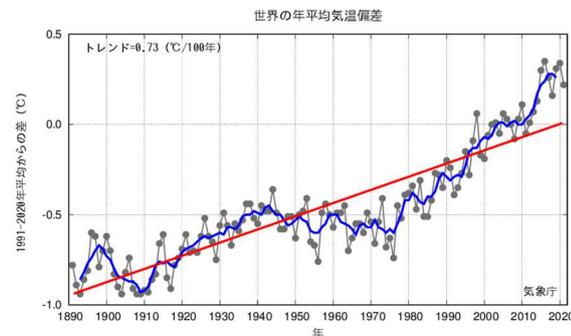


図3 世界の年平均気温の経年変化（1891～2021年）。1991～2020年の30年平均値からの偏差で表示。2021年は1～11月の期間から算出した速報値。

本資料は、日本の天候については2021年12月20日まで、台風については12月22日まで、日本と世界の平均気温、世界の天候については11月までの状況を速報としてまとめたものです。確定値に基づく情報は、2022年1月以降、気象庁HPにおいて順次公開します。

内容に関する問合せ先：電話 03-6758-3900（代表）

- ・ 日本の年平均気温、世界の年平均気温について
気候情報課 池田（内線 4542）
- ・ 日本の天候について
（各地の観測データや統計）観測整備計画課 村井（内線 4268）
（天候の要因）気候情報課異常気象情報センター 竹川（内線 4547）
- ・ 台風について
気象リスク対策課アジア太平洋気象防災センター 笠原（内線 4232）
- ・ 世界の天候について
気候情報課異常気象情報センター 後藤（内線 4548）